沖縄戦71年 募る憤り

「慰霊の日」追悼式

知事、米軍属事件に言及

「平和の礎」で刻まれた名前に触れる遺族＝23日午前、沖縄県糸満市の平和祈念公園

沖縄県は23日、太平洋戦争末期の沖縄戦で命を落とした20万人以上の犠牲者を追悼する「慰霊の日」を迎えた。71年前のこの日、沖縄戦の組織的戦闘が終結したとされる。最後の激戦地となった同県糸満市摩文仁の平和祈念公園では、恒久平和を誓う「沖縄全戦没者追悼式」が営まれた。翁長雄志知事は平和宣言で、元米海兵隊員の軍属が逮捕された女性暴行殺害事件に言及、米軍基地負担の軽減を求めた。

（7面に知事平和宣言要旨、8、9面に関連記事）

追悼式には遺族のほか安倍晋三首相やケネディ駐日米大使らも出席した。

平和宣言で翁長氏は「悲惨な戦争体験が、平和を希求する沖縄の心の原点」と強調。今回の事件を受け「県民は大きな衝撃を受け、不安と強い憤りを感じている」と指摘した。戦後71年を経ても沖縄に広大な米軍基地が存在するとして、在日米軍の法的地位を定める日米地位協定の抜本的見直しとともに「海兵隊の削減を含む米軍基地の整理縮小」の実現を要求した。

米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設を「唯一の解決策」とする政府の姿勢を翁長氏が「到底許容できるものではない」と批判した。

沖縄戦では、多くの民間人が巻き込まれ、県民の4人に1人が犠牲になったとされる。戦没者名を刻んだ平和祈念公園内の石碑「平和の礎」には今年、新たに判明した84人が追加刻銘され、総数は24万1414人となった。式典の参列者は、犠牲者の死を悼み正午に1分間黙とうした。

沖縄は、日本本土に復帰する1972年まで米施政権下に置かれ米軍基地が次々と建設された。現在も国内の米軍専用施設の74・4%が集中している。

翁長沖縄県知事の平和宣言ポイント

- 戦後71年が経過しても依然として広大な米軍基地が横たわる
- 非人間的で凶悪な女性暴行殺害事件に、県民は大きな衝撃を受け、不安と強い憤りを感じている
- 真の意味で平和の礎を築くため、日米地位協定の抜本的見直しや米海兵隊の削減を含む米軍基地の整理縮小を直ちに実現するよう求める
- 米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設について、県民の理解は得られず許容できない

沖縄戦 太平洋戦争末期の1945年3月26日、米軍が沖縄・慶良間諸島に上陸して始まった地上戦。日本軍の組織的戦闘は6月23日、司令官の自決で終結したとされる。その後も局地戦は続き、沖縄の日本軍の正式な降伏調印は、終戦翌月の9月7日だった。日米双方で計20万人以上、沖縄県民の4人に1人が死亡。日本軍は住民に対し、集団自決を強制したりスパイ容疑をかけて虐殺したりした。沖縄は72年5月の本土復帰まで米統治下に置かれ、今も続く基地問題の原点となった。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① この記事の主な見出しを2つ書きましょう。

（　　）

（　　）

② その見出しに使われている言葉は、リード、本文のどこに書かれていますか。マーカーで印をつけましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

名前 【　　】

NIEワークシート／小学高学年～高校／社会、総合、朝NIE